

白書の注目点⑤：グローバル化が進む日本経済

●世界に展開する日本企業の経済活動

- ◇過去30年間で、日本企業によるグローバルな展開が進みました。1980年代の貿易黒字を背景にした貿易摩擦もあり、海外での現地生産が拡大したほか、部品生産や組立などの工程をアジア各地域の拠点に分散して行うサプライチェーンの構築が進み、さらに、近年では海外企業の買収も活発になっています。
- ◇こうした日本企業の海外展開もあり、日本の経常収支黒字は、規模では1980年代とGDP比では大きくは変わらないものの、その内訳は、財・サービスの貿易収支の黒字が縮小した一方、海外からの投資収益や配当などの所得収支の黒字が大幅に増加し、経常収支の大半を占めています（右ページ図1）。
- ◇さらに、日本企業の海外展開が進む中で、海外企業の買収を含む対外直接投資が、市場規模の大きい北米（アメリカ及びカナダ）向けや、成長の期待されるアジア向けなどを中心に、増加を続けています（図2）。また、日本企業の海外現地法人の売上高をみても、製造業、非製造業とも、増加傾向にあり、財やサービスの貿易面に加え、海外拠点や買収先企業からの投資収益等を通じて、世界で稼ぐ力を高めていることが分かります（図3）。

●グローバル化は生産性を高め、質の高い雇用を創出

- ◇グローバル化の進展は、企業の生産性を高め、質の高い雇用を生み出す効果があります。企業レベルのデータを用いて実証的に検証すると、輸出や海外での直接投資を行う企業は、国際取引をしていない企業と比べ、生産性、雇用者数、賃金の水準が高くなっています（図4）。
- ◇また、海外企業との共同研究・人材交流等を行っている企業が、それに加えて海外展開を積極化したり新たに行うことによって、企業の生産性がさらに向上する可能性も、実証分析によって示されています（図5）。
- ◇他方で、グローバル化によって技能労働への需要が高まり、賃金格差につながる可能性がありますので、グローバル化への対応を図りつつ、教育訓練の強化や雇用の流動性の確保、セーフティネットの整備などにより、格差が拡大しないよう注意する必要があります。

図1 日本の経常収支の内訳

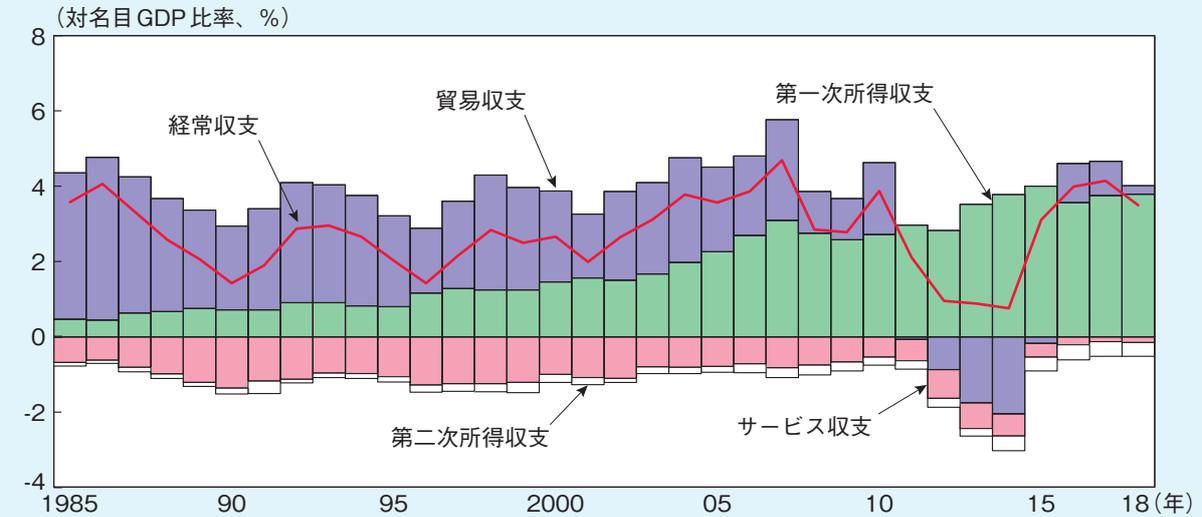


図2 日本の対外直接投資残高

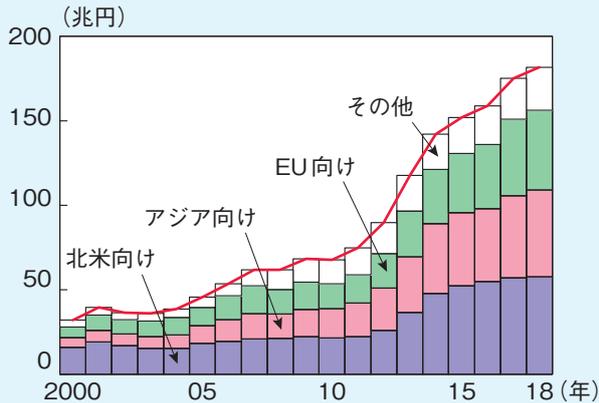


図3 日本企業の海外現地法人の売上高

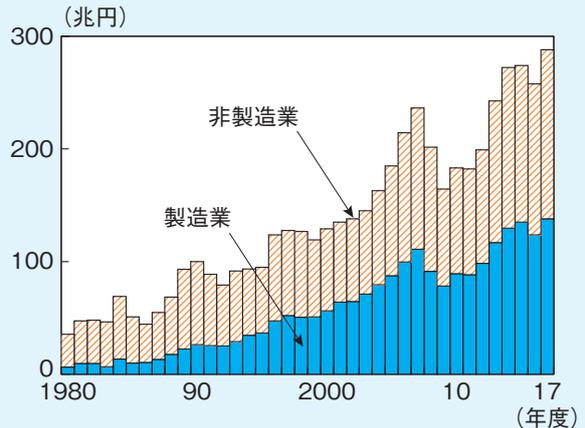


図4 輸出企業のプレミアム
(非輸出企業との平均値の比)

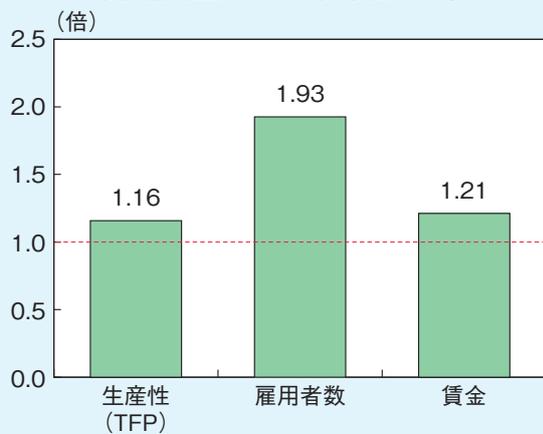
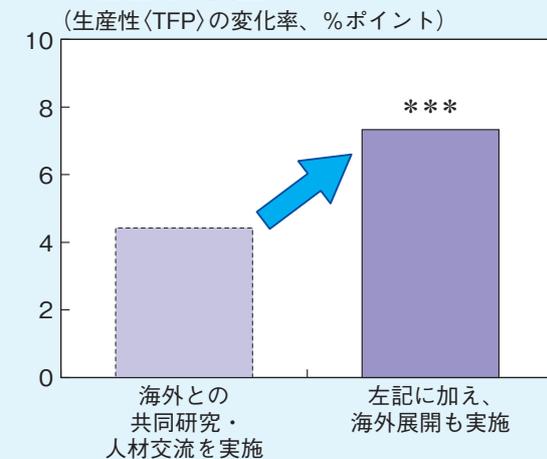


図5 グローバル化による日本企業の生産性の向上



(備考) 図1：第3-1-1図(3)を基に作成。
図2：第3-1-9図(1)を基に作成。
図4：第3-3-1図(2)を基に作成。

図3：第3-1-7図(2)を基に作成。
図5：第3-3-3図(3)を基に作成。